

現行プランと新プランの比較表 【全体構成】 （施策体系たたき台）

現行プランの構成〔旧〕	新プランの構成〔新〕	備考
はじめに 1 なぜ計画を作るのか 2 計画の期間	はじめに 1 なぜ計画を作るのか 2 計画の期間	
第1章 総論 1 社会情勢の変化 2 平成23年プランにおける成果と課題 3 計画の基本的な考え方	第1章 総論 1 社会情勢の変化 2 平成28年プランにおける成果と課題 3 計画の基本的な考え方	時点修正
第2章 各論 施策の体系	第2章 各論 施策の体系	
	I あらゆる分野における女性の参画拡大 （新規項目） 1 政策・方針決定過程への女性の参画拡大 （項目移動） 2 地域社会における男女共同参画の推進 （項目移動・名称変更） 課題等 ・人口減少が進む中、地域社会が持続的に発展するためには多様な意見を反映した取組が不可欠。 ・女性の意見や考え方が施策で反映されていると感じる割合が4割以下。（H30男女意識調査） ・男女がバランスよく参画する審議会等の割合が目標を達成していない（H30目標：73.4%実績：61.3%） ・自治会長に占める女性の割合が全国平均を下回る（H30内閣府調査。全国：5.7%、本県4.0%）	・新規で柱に位置付け ・現プラン「II女性の活躍支援」から「政策・方針決定過程への女性の参画拡大」を移動 ・現プラン「III基盤の整備」から、「地域における男女共同参画の推進」を移動
I 東日本大震災津波からの復興と防災における男女共同参画の推進 1 東日本大震災津波からの復興における男女共同参画の推進 2 防災における男女共同参画の推進 【成果】男女共同参画視点からの復興・防災に関する研修の受講者数が着実に増加、市町村防災会議の女性委員数が増加 【課題】復興・防災に関する政策・方針決定過程への女性参画の一層の促進が必要	II 東日本大震災津波からの復興と防災における男女共同参画の推進 1 東日本大震災津波からの復興における男女共同参画の推進 2 防災における男女共同参画の推進 課題等 ・女性委員が参画する市町村防災会議の割合が横ばい（81.8%）である等、復興・防災への更なる取組が必要。 ・震災以降も大規模自然災害が多発しており、非常時に備え、多様な住民の意見を反映した取組が引き続き必要。	
II 女性の活躍支援 1 政策・方針決定過程への女性の参画拡大 2 女性の職業生活における活躍の推進 3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進のための環境づくり 4 男女均等な雇用機会・待遇の確保など雇用環境の整備 5 農林水産業・商工自営業における男女共同参画の推進 【成果】女性の就業率の向上、M字カーブが解消傾向、女性の職業生活における活躍の推進のための各種研修の受講者数の増加、子育てに優しい企業の認証数及び女性活躍認定企業等数の着実な増加 【課題】女性登用や審議会等委員に占める女性の割合など政策・方針決定過程の女性参画の一層の促進、仕事と生活の両立支援等の女性が活躍できる職場環境づくりに向けた取組が引き続き必要	III 女性の活躍支援 1 女性の職業生活における活躍の推進 2 仕事と生活を両立できる環境づくり（名称変更） 3 男女均等な雇用機会・待遇の確保など雇用環境の整備 4 農林水産業・商工自営業における男女共同参画の推進 課題等 ・女性活躍推進法に基づき、女性が働き続けられ、能力を十分に発揮できる社会をつくることが重要。 ・企業等の取組は進んでいるものの、雇用環境の整備や仕事と生活を両立できる環境づくりが不十分。 ・職場において男女が平等と感じている人の割合が25%にとどまる（H30男女意識調査） ・本県男性職員の育児取得率が1.3%にとどまる（全国ワースト2位）	・現プラン「政策・方針決定過程への女性への参画拡大」をIへ移動 ・現プラン「3ワーク・ライフ・バランス」の項をいわて県民計画との整合性を図り名称変更したうえで、「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」の取組を促進。
III 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 1 男女共同参画を推進する教育・学習の充実 2 男女共同参画の視点に立った意識改革と制度・慣行の見直し 3 家庭における男女共同参画の推進 4 地域における男女共同参画の推進 【成果】男女共同参画サポーターの増加、男性サポーターの着実な増加、男性の家事時間割合の増加 【課題】男女共同参画視点に立った意識改革と制度・慣行の見直しによる不平等感の解消、高齢女性やひとり親世帯など困難を抱える女性への支援、LGBTへの理解促進、男性の家事・育児・介護への参加促進	IV 多様な困難を抱えた女性等への支援と女性の健康支援 （名称変更） 1 女性に対するあらゆる暴力の根絶 2 困難を抱えた女性等への支援（項目移動・組替新規） 3 メディアにおける人権の尊重 4 生涯にわたる女性の健康支援 課題等 ・DVの相談件数（約2000件）、保護件数（30人前後）がH28年度以降横ばいで推移 ・高齢単身、ひとり親世帯など、男女格差等を背景とした生活上困難を抱える女性が安心して暮らせる社会づくりが必要。 ・LGBT相談件数の増加（H28：42件⇒H30：167件）しており、LGBTへの理解促進が必要。	・男女格差や性差による偏見を背景とした多様な困難に直面している女性等が社会的なつながりを回復し、自立に向かうまでの支援に係る項目を新たに盛り込む。※国の「多様な困難に直面する女性支援政策パッケージ」（R1.12.26多様な困難に直面する女性に対する支援等に関する関係府省連絡会議）関連
IV 女性に対する暴力の根絶と女性の健康支援 1 女性に対するあらゆる暴力の根絶 2 メディアにおける人権の尊重 3 生涯にわたる女性の健康支援 【成果】DV相談員研修やメディア対応能力養成講座の受講者数の着実な増加 【課題】DVの防止と根絶、児童虐待防止とDV防止の連携強化、配偶者暴力相談支援センター等の周知、子宮頸がん・乳がん検診の受診率の向上	V 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 1 男女共同参画を推進する教育・学習の充実 2 男女共同参画の視点に立った意識改革と制度・慣行の見直し 3 男性の家庭生活への参画と子育て・介護等を支援する環境づくり（名称変更・組替） 課題等 ・社会全体として男女の不平等感が改善しない（男性が優遇されている：69.2% H30男女意識調査） ・固定的性別役割分担意識に同感しない割合が増加（同感しない：62.4% H30男女意識調査） ・共働き世帯の男性の家事時間が増加しているものの、女性の40%にとどまる（H31県民意識調査）	・I～IVの項を下支えする項として、最後に位置づけ。 ・現プラン「家庭における男女共同参画の推進」を、男性の家庭参画や育児・介護サービスの充実等男女共同参画を推進するための環境づくりの項として整理し項目名を変更。
第3章 計画の推進 1 それぞれの役割と連携 2 プランの進捗状況管理	第3章 計画の推進 1 それぞれの役割と連携 2 プランの進捗状況管理	
主要指標一覧	主要指標一覧	
参考指標一覧	参考指標一覧	